

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1495400085
法人名	有限会社 ノベライズ社
事業所名	グループホーム たま
訪問調査日	平成 20 年 11 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 5 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1495400085
法人名	有限会社 ノベライズ社
事業所名	グループホーム たま
所在地	神奈川県川崎市多摩区宿河原6-30-25 (電話) 044-833-5122

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷 金	有(144,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(144,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月27日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柿生内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆JR南武線久地駅から徒歩5分、4階建ての建物の1、2階にある。事業所内は、各ユニットがメゾネット(複層住戸)形式になっており、各ユニットに玄関、階段、エレベーターがある。
◆利用者の生活歴や趣味、得意なことを把握し、一日の大まかな流れはあるが、朝食の時間を3つに分けるなど、利用者のペースで生活をしてもらっている。買い物、歌やカラオケなどを楽しんだり、利用者と職員と一緒に食事作りやおやつ作りなどを行っている。
◆協力医療機関とは24時間電話で対応をしてくれる体制を確保し、利用者の健康管理に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が会議で意義などを説明し、全職員が自己評価票を記入し、ユニットごとに各ユニットの管理者がまとめた。自己評価を行ったことで、これからの事業所のあり方や運営方法、職員のケア方法などを考える機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会の行事と重なったこともあり、初回の運営推進会議は家族会と同時に開催して、家族と意見交換を行った。次回は民生委員、地域包括支援センターに出席依頼をし、概ね2ヶ月ごとに開催する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に家族に説明している。家族が訪問しやすく、意見・要望・苦情等が気軽にいせよう、職員は家族とコミュニケーションをとることに努めている。寄せられた意見・要望・苦情等は、職員間で話し合っ、改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入をしている。また、散歩や買い物等の外出の際に挨拶をしたり、地域の行事に参加して、少しずつ地域の人とふれあえるようにしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき、職員間で話し合い、ユニット「空」では「きれいにしましょう、穏やかに生活しましょう、入居者と良い関係を作りましょう」を目標とし、ユニット「虹」では職員の個人目標を作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット「空」ではリビングの壁に、ユニット「虹」では職員のロッカールームに掲示し、意識を高め、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入をしている。また、散歩や買い物等の外出の際に挨拶をしたり、地域の行事に参加して、少しずつ地域の人とふれあえるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価及び外部評価の実施であり、管理者が会議で意義などを説明し、全職員が自己評価票を記入し、ユニットごとに各ユニットの管理者がまとめた。自己評価を行ったことで、これからの事業所のあり方や運営方法、職員のケア方法などを考える機会となっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の行事と重なったこともあり、初回の運営推進会議は家族会と同時に開催して、家族と意見交換を行った。次回は民生委員、地域包括支援センターに出席依頼をし、概ね2ヶ月ごとに開催する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	多摩区、麻生区の各区役所に介護認定などで行っている。今後は、県・市・区の研修会への参加や地域包括支援センターとの連携を深めていく意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には日常の暮らしぶりを伝えたり、個人記録を確認してもらっている。利用者の状態に変化があった時は、その都度電話で伝えている。来訪の少ない家族には、必要に応じて電話で伝えている。金銭管理は、毎月の利用料請求の送付時に、出納表と領収書を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に家族に説明している。家族が訪問しやすく、意見・要望・苦情等が気軽に出来るよう、職員は家族とコミュニケーションをとることに努めている。寄せられた意見・要望・苦情等は、職員間で話し合っており、改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と話す機会を持ち、働きやすい環境作りに努めている。開設後間もないこともあり、職員の退職はまだない。法人内の異動は、事前に管理者に伝えられる。異動や退職がある場合には早めに職員に周知し、利用者に影響が生じないように、職員間で話し合いフォローしあう予定である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時には、管理者が1～2週間かけてOJTで研修を行っている。法人内の他の事業所とは、管理者会で情報交換を行っている。外部研修への参加は今後取り組んでいく意向である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループホーム協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に事業所を見学してもらい、申込を受けて管理者1人または補佐と2人で利用者を訪問して面接をしている。見学や面接時に事業所での生活の様子などを本人、家族に説明し、本人、家族の希望や不安なこと等を聞いている。安心して生活できるように、使い慣れた物などを持ち込んでもらうように説明している。入居時には職員がマンツーマンで対応し、他の利用者との関係を作りながら、ゆっくり慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや片付け、食器洗いなどを職員と一緒にやっている。職員は利用者に料理の仕方や味付けなどを教えてもらったり、利用者からの「ありがとう」の言葉に、職員は喜びを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接時のアセスメントや毎日の生活の中での会話で、利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な人には態度や動作から判断し、職員間で話し合い、意向に添えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の面接時のアセスメントや毎日の生活の中での会話を通し、利用者の意向を把握して介護計画を作成している。介護計画は家族に見てもらい承認を得るとともに、職員間で情報の共有に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、概ね3ヶ月ごとに行う予定としている。状況に変化があった場合には家族等に連絡の上、職員で話し合い、新しい介護計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が契約する協力医療機関以外の医療機関に受診する際や、理美容院に家族が付き添えない場合には、職員が送迎や付き添いを行っている。今後は、事業所の会議室を地域に貸し出したいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診先を選べることを説明し、現在の利用者は全員が事業所の契約する協力医療機関による月2回の往診を受けている。協力医療機関とは24時間電話で対応してくれる体制を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「入居者の急変時や重度化した場合等における対応に係わる指針」を定め、入職時の研修や会議で話し合い、職員間で共有している。利用者、家族には入居時に指針について説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応については、入職時の研修や日々の係わりの中で管理者が指導している。「個人情報保護方針」を法人で定め、入職時に職員に周知徹底している。ケア記録には他の利用者の名前はイニシャルで記載している。個人情報の書類は事務室に施錠・保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、出来るだけ利用者の希望に添えるようにしている。利用者の起床時間に合わせて、朝食の時間を3つに分けている。訪問調査時には、午前のおやつの時間に朝食をとる人、ソファで話をしている人など、利用者それぞれのペースで好きなことをして過ごしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食は職員が献立を決めているが、昼食は利用者の食べたいものを聞き、献立を決めている。食材は利用者と職員と一緒に買いに行っている。訪問調査時には、利用者と職員と一緒に、一部の利用者に集中しないように分担して、料理、片付けや食器洗いも行い、利用者と職員が会話をしながら食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として3日ごとになっているが、希望があれば毎日でも入ることもでき、状態によりシャワー浴もしている。職員と話を楽しく入浴できるようにしている。入浴を好まない人には、入浴を促す場合もあるが、出来る範囲で利用者の希望やタイミングに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、できないことを把握し、利用者は職員と一緒に、食事作りや食器洗いなどを行っている。一人の利用者に集中しないように、職員は声かけをしている。また、買い物、歌・カラオケ、絵描きだった人が絵をかいたり、習字の好きな人が習字を行うなど、思い思いのことができるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周辺への散歩、食材の買い出し、月に一度の外出など全員で出かけたり、グループで出かけたりしている。午後のおやつ時間に、近くの喫茶店等にも出かけている。家族や知人と外出する人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットは、メゾネット(複層住戸)形式になっており、各ユニットの玄関は日中施錠をしていない。職員は利用者の行動を把握して、見守りをしている。訪問調査時に、玄関を出ようとする利用者に、職員がそばに寄ってきて声かけをしていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まだ災害訓練を実施していないが、消防計画書を消防署に提出し、平成21年の4月、10月に訓練を行うことが決まっている。同一建物の3、4階の居住者と共同避難訓練ができるよう、管理組合と話し合う意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の健康チェック表に食事摂取量を記録・管理している。栄養士等による献立の栄養バランスや量についてチェックはまだ受けていない。一人ひとりの嗜好にあわせた、食事の提供の方法を検討していく意向である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、メゾネット(複層住戸)形式になっており、1階にあるリビングにはテーブル、ソファ、テレビを置き、玄関廊下にもソファがある。リビング横には畳みの部屋もあり、利用者が自由に過ごせるようにしている。利用者の描いた絵や行事の写真が飾っており、和やかな雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るくて広く、洗面台が備え付けられている。ベッド、希望により畳を敷き布団の居室があり、使い慣れたタンス、テーブル、椅子、縫いぐるみ、化粧品、家族の写真などを置き、本人が居心地よく過ごせる場所になっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム たま
(ユニット名)	空
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市多摩区宿河原6-30-25
記入者名 (管理者)	浦川 幸子
記入日	平成 20年 9月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社での理念はあるが、スタッフ会議でスタッフ全員で理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアをしていく中で、困難事例にぶつかった際など、日々の生活の中で振り返っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念(目標)をリビングに掲示してあるが、地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいない。	<input type="radio"/> 家族会、運営推進会議などで、説明し、理解して頂けるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方達と逢うとご挨拶はしているが、ご家族以外の方達が立ち寄ってくれることは殆どない。	<input type="radio"/> 行事等、3、4階にグループホーム以外の方達が住んでいるので、防災訓練等を通じて、顔なじみになり、気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の夏祭りには参加している。自治会にははまっているが、地域活動には参加していない。	<input type="radio"/> 入居者の方の中にもボランティア活動をしたいという方もいるので、町内の広報新聞で調べたりと、積極的に地域活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方達の暮らしに役立つことは何かないか話し合いはするときはあるが、取り組んでいない。	○	ホームで研修を開催し、地域の方達にも参加してもらい、ケアサービスの推進に還元できるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについては話し合いをし、スタッフ全員で取り組んでいる。自己評価は今回始めてなので、具体的な改善には、まだ取り組んでいない。	○	自己評価を集計後、スタッフ会議を開催し、すぐ改善できるところから取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の際、運営推進会議開催予定でしたが、欠席するかが殆どだったので、実施していない。	○	家族会も含めて、定期的に運営推進会議を開催し、まず、ホームを知ってもらうことから始め、質問、意見、要望をうけ、取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所にはご挨拶にはいっているが、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいない。	○	市町村と連携がとれるように、情報交換する機会を設けていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度で入居されている方がいるので、学ぶ機会がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、スタッフにも話しはしている。事業所内では虐待はないが、虐待防止関連法については学ぶ機会が設けていない。	○	スタッフ会議開催時、虐待防止関連法について学ぶ機会を設けるとともに、再度、事業所内でも注意を払っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、事業者の出来る事、出来ない事を説明し終末期についても、どう取り組んでいくかお話ししている。最後に、ご不明な点はないかお聞きし、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情をお聞きした際は、すぐに対応している。</p>	<p>○</p> <p>申し送りノートには記載しているが、今後苦情報告書に記載し、スタッフにも意識をもっと強くもってもらうように取り組んでいきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用料、出納帳送付している。ご家族来訪時には、日常の様子をお話し、その他、心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず、電話にでもご連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が訪問した際、又は電話にでも意見、不満、苦情をお聞きし、スタッフにも申し送り、改善している。</p>	<p>○</p> <p>今後、家族会を開催し、意見をもっとだしていただけるよう、運営に反映させたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議、日常の勤務の中で、聞く機会を設けて、反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整には勤めているが、人材不足の為、急なスタッフの休みに関しては、確保できる人材はいない。</p>	<p>○</p> <p>人材確保できるように、会社と再度、改善策を検討していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に関しては、事前に聞いているのは、管理者のみが多い</p>	<p>○</p> <p>空ユニットでは、異動はまだないが、異動がある場合は、利用者へのダメージにも考慮して、事前にスタッフに話しをする機会を設ける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に取り組みはじめたばかりである。	○ スタッフの要望を聞きながら、研修をうける機会を多く、取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者と話をする、訪問する機会はあるが、ネットワークづくり、勉強会には参加していない。	○ グループホーム協会には加入しているので、参加し、積極的に交流をもつようにし、サービスの質の向上に反映させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時々、訪問してくれるが、管理者からの話を聞くことが多い。	○ まず、一日の様子をみてもらい、運営者がスタッフと話しをする機会をもってもらってから始める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は把握しているが、具体的には、各自が向上心をもって働けるようには、努めていない。本年度昇給がある。	○ 各自が向上心を持って働けるように、運営者と話し合いをし、少しでも改善できるように検討していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人、ご家族と相談から利用に至るまでに問題点や要望を話し合う機会を設け対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	積極的に取り組んでいえる。ご家族、ホームとの連絡を面会時、電話等で蜜におこなっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で、当ホームではなく、他の支援を必要であれば、情報提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と相談しながら、入居前に何回かホームにご本人が来訪することがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員ひとり一人が、それぞれの入居者とより関わりが持てるよう声掛けなどを積極的にいき行い務めている。家事参加の際も入居者の方にわからないことを聞いたり、料理など味見をしてもらい、して頂いたことに関しては、お礼をいっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況や変化を共感し、改善点などの提案を互いに行っている。また、行事の際も準備のお手伝いをして頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られないご家族とも連絡を密にとり、ご本人とご家族の意思の確認に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ生活環境を職員も把握しており、支援はしているが、人や場への関係継続の支援は特に行っていない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者それぞれに合わせた生活環境が主体となっており、入居者同士の交流は比較的少ない。	○	日常生活及び行事等における入居者同士の交流する機会を多く作り、入居者同士が理解をしてもらえるように、場面によっては職員が間にはいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了者がいない為、実施していない。	○	行事のお知らせ等を通して、利用者やご家族との交流を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの対話などのかかわりから、ご本人の希望等の把握に努め、職員間で情報を共有している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報をファイリングし、生活歴、サービス利用経験等を把握している。また、ご家族より、馴染みの暮らし方等の情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに細かく生活記録をつけ、一日の過ごし方や心身状態などを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の要望をお聞きし、入居担当と一緒に計画作成者が立案し、ケアカンファレンス開催し、介護計画を作成している。カンファレンスが定期的に出来ないことがある。	○	定期的にケアカンファレンスを開催していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間によって見直しはしているが、見直しが出来ていない入居者の方もいる。	○	見直し期間にあわせ、計画を立て、ご家族、ご本人の要望とずれていかないようにし、職員間でも情報の共有を強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入の他にケア検討ノートへの記入も行い、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	モニタリングの方法を再度検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の要望があれば、通院時に付き添っている。また、福祉用具に関して、ご家族の要望によっては、相談にのっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご家族がボランティアとして食事を一緒に作ってくれたりとはあるが、まだ、ボランティアの方が訪問にくることはない。	○	消防の方とは連携している。また、自治会に加入しているので、広報新聞を参考にし、今後、公民館、図書館を利用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居の際などにケアマネジャーとあい、情報交換しているが、連携はとれていない。	○	運営推進会議を定期的開催するなどして、今後、連携をとっていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを訪問し、情報交換しているが、人的ネットワーク組織も含めて協働していない。	○	今後、事業者で解決できないことを相談するなどして、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で提携医療機関の月2回往診をうけているが、ご本人・ご家族の要望がある際はかかりつけ医の受診も支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と関係との関係は築いていないが、協力機関のドクターに相談している。	○	適切な指示や助言をしてくれる認知症に詳しい医師が地域にいるか探して、関係を築いていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回看護師が訪問し、健康管理をおこなっている。24時間相談できる体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	まだ入院した方はいないが、協力機関のドクターに紹介してもらうことになっている。また、緊急時には市民病院を利用している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方については契約時にご家族に説明し、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所のできること・できないことについては、契約時に説明しているが、今後の変化に備えての検討・準備は行っていない。	○	スタッフ会議等で、今後重度化・終末期にむけた支援を検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族と情報交換しながら、入居前に職員間で話し合い、確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職場内研修、また日々の状況で声かけには指導している。又個人情報決められた場所に保管しており、記録にかんしても、他の入居者に関してはイニシャルで記載している。他のご家族がいらした際、スタッフがご本人のプライバシーについて話さないように指導している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の方には、筆談で対応しており、他の入居者に関しても、思いや希望を表せるように働きかけはしている。買い物に関しても、行かれる方には選んでもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくひとり一人のペースで生活して頂いているが、その日の業務によっては、希望に添えないことがある。	○ 外出したい等、したいときに出来るように希望に添えるように支援していきたい。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容では、ご本人の望むお店にいたりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備、食事、片付けをしているが、限られた入居者がしていることが多い。	○ ひとり一人の力をいろいろな角度から再度把握し、活かしながら、食事をたのしみなものになるよう、支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が望むものを飲んだり、食べたりしているが、ご家族の要望又は、既往によりお酒が飲めない方が多い。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出きるだけトイレでの排泄を援助し、トイレ誘導が必要な方でも、ご本人の様子をみながら誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望があれば、そのタイミングにあわせて、入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者のリズムにあわせるようにし、昼寝をする方も短くしている。また、不眠傾向の方については、医師とも相談している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしり、買い物、家事等個々の入居者の特技や関心事の発見にそれぞれの職員が努めている。	○	特定の入居者のみが家事や散歩等をする事のないよう、また、楽しみが何かを把握し、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、購入希望を受けた際には、その都度、お金を用意している。また、ご本人がお金をもっているかたは、おひとりで購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り対応出来るように努めている。入居者の状態や職員の状況により、外出の機会を作っている為、希望にそえない日もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と出かけている方もいるし、外食、または近隣のばら園に行くことはある。	○	入居者の誕生日にご本人の希望する場所への外出付き添いを行うなど検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望により、電話をかけることがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等の面会はいつでも出きるよう、20時を限度とし、時間の制限は設けていない。居室、リビング等の整備に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないことで周知している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口などやむえない箇所については、危険予防のため施錠している。玄関については職員人数が少ない際など、時間をきめて施錠することもあるが、日中は殆ど施錠しない方針をとっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間帯は定期的に巡視する。日中居室で主に過ごす方に対してのプライバシーも考慮しながら、居室にいる方の様子確認・フローア、玄関ホールなど所在確認に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物品・紛失の可能性が考えられるものは納戸・職員預かりなどで対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を全く無くすことは出来ないが、おこった事例に対し対応を考え、同様の事故・頻度を減らすように努めている。	○	事故ケースに応じての予防策の徹底、環境設定を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルはあるが、未経験者も多いこともあり、全職員が把握しているとはいえないのが現状である。	○	緊急時迅速に対応できるかの研修をし、マニュアルを再度見直していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画は作成してあるが、避難訓練実施していない。	○	3, 4階に住んでいる方たちも含めて、避難訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に転倒などリスク面の説明・面会の都度様子の報告など家族・職員・情報の共有に努めている。	○	リスクについての対応策を再度検討していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の様子の変化など、申し送りでの伝達・業務中の情報交換を交わして共有し、状態に応じてご家族、ドクターに連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報に薬の用法・用量がファイリングしており、周知している。変更については、ケアノートなどで伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	完全に取り組まきれていないが、健康チェック表で、排便間隔をチェックし、下剤を使用する際は、事前にドクターに相談をし、とりきめをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、口腔ケアをしている。また、訪問歯科で必要な方に関しては、往診時、口腔ケアをしてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表にて食事摂取量の確認、必要に応じて水分量を確認し、記載している。	○	今後、ひとり一人の嗜好も把握し、食事形態、提供方法も検討していき、また、定期的に、栄養の専門的な観点からチェックしていただくようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する資料はあるが、ホームとしての対応・とりきめに関してのマニュアルはない。	○	感染症のマニュアルの作成・対応の周知をしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の整理日はきまっておき、まな板、湯のみ、コップなど毎日消毒している。また、調理器具に関しては、使用前・使用后洗浄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2ユニット基本的に独立していて他入居者への影響はそれほどない。玄関がすりガラスになっており、最近では、近隣の散歩者など少しずつ訪問されることがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族から頂いた絵、入居者の方が折り紙で作ったものを何点かリビング、廊下部分にかざってある。また、個人のプライバシーな面を守りながら、テレビ・カーテン開放など入居者の状況にあわせている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関エントレスにソファー設置し、和室空間など自由に使ったり、団欒の場にしたり、活用できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に普段使われているもの、馴染みのあるものを持参される入居者、必要最低限の物だけとご家族の考えで持参される方もいる。心地よく過ごされているか判断が難しいが、殆どの入居者の方は自室にはいると、自分の部屋だと納得される。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日居室を訪問する際、窓をあけ空気入れ替えをしている。冷暖房については、外とあまり温度差がないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには手すりがあるが、玄関に多少段差があるので、足元にふらつきがある方は転倒の危険性がある。	○	今後、必要に応じた対応(手すりの設置)など、入居者の状態にあわせて検討していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口にご本人の希望で名前を記入したり、写真を貼ったりしている。ひとり一人の力は把握できているが、活かされていない場面もある。	○	今後、ケアプランにもとずいて、入居者の能力を活かせる環境づくりをしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さい花壇だが花をうえたり、時にはくさむしりもして下さる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業者として、取り組んでいることは、人材確保・人材育成と質の向上となっています。職員の定着を目的として職場環境の整備及び働きやすい環境を会社も含めて取り組むべきだと考えています。職員の希望時には傾聴し、管理者から会社へとフィードバックし、改善できるものから取り組んでいきたいと考えています。スタッフの力が入居者の生活にも多大な影響があるので、生き活きと働いてくれることが、質のよい介護を提供できる原点と捉えています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム たま
(ユニット名)	虹
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市多摩区宿河原6-30-25
記入者名 (管理者)	佐藤 雪子
記入日	平成20年9月22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は作っているが、認識不足	○	理念の大切さを理解し、組み立てを行う
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	研修などで伝えている。	○	共有～実践をチームで、実践していける用工夫する。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が多数来所して下さるが、理念の理解までは至っていない。	○	家族会などを、作り勉強会を行う
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に、参加。近隣の方々とは、徐々にコミュニケーションとれつつある。犬の散歩や、お子さんの、散歩時など交流している。	○	気軽に立ち寄って頂けるように、挨拶や声掛けを行う。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事の時、地域包括センターや近隣の方にお誘いしている。	○	今回初めての行事に参加頂けず、残念でした。今後参加頂けるように、関係作りをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。	○	今後町内会等関わりの中で、取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解している。	○	初めて評価を受けるので、改善点など、一つずつ取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後取り組んでいく。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組めていない。	○	市町村担当者と話す機会を持ち、私たちに出来るサービスの向上を目指す。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度利用の、方がいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時特に注意を、払い説明している。ご家族にも、時間を作って頂き話す機会を持ち、電話等でも話す工夫をしている。	○ 説明は行っているが、理解に至っていない時もあり、口頭と書面で、きちんと理解頂けるように取り組んでいく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社や管理者に伝えて頂き、対応している。	○ 職員ノートにて、情報を共有し、改善する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来初時や電話等で、報告している。来初時個人記録を読んで頂くことをしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社や管理者に伝えて頂いている。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映されてない部分が多い。	○ 職員の意見や提案を聞き管理者会等で話す。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	取り組めていりか、改善点もある。	○ 今後人材確保が、必要
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	取り組んでいるが、問題点もある。ホーム内では工夫している。	○ 利用者へのダメージ防止を考え、長期的な配慮をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、行っている。	○ 法人内外の研修にも、参加できる、体制を作る。段階に応じての、研修を行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学を行った。	○ ネットワークとして、繋げていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいるが、問題点が多い。	○ ホームの状態を理解し、職員との話し合う機会を持つ。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の目標、ホームでの目標を立て、努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談の中で聴く機会を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談以外にも、家族の方と話す機会を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や、入居時必要に応じて、情報提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす中で、学ばせて、頂き、関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族をお客様扱いを、しない事を、スタッフと家族に伝え、本人を中心に共に家族として関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来初時一緒に散歩などに行き、マンツーマンの関わりをしていただいている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が、来初している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	少しずつ良い関係が出来ている。	○	入居者同士の関わりが行えるよう、配慮し、職員が情報を共有し、関係作りをひろげて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	必要に応じて行う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の関わりの中で、把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルにて個人情報の把握又サービス利用の経過は、以前のケアプラン等から、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めているが、一人ひとりの力を生かしていない。	○	一人ひとりの力をいろんな場面に行かして行けるようにチームでの支援を行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は出来ていないが、ケアノートなどで、情報を共有し、日々のケアを行っている。	○	早急を実施する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		○	必要に応じて行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、ケアノート、連絡ノート、にて情報の共有をしている。	○	記録、にとどまり、記録の大切さや気づきが足りない事を伝えていく。本人の発言等も、きちんと記録に落とす。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、通院介助、外出支援などを行っている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	家族の方がボランティアにて、掃除や食事作りの協力している。	○	他のボランティアや地域の公共施設の利用や、学校などと協力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時ケアマネジャーが家族と一緒に、来所し情報交換している。入居後も相談し、関わりがある。		行事や、運営推進会議参加などで、関係作りを進めていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりはあるが、協働していない。	○	今後相談や、情報交換が出来るように努力する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との密な連絡、24時間電話にての対応。家族、本人が、希望される医療が受けられるように、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診は無いが、提携医療機関の、医師に相談出来、支援している。	○	必要に応じて行う。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週来所。利用者の状態に応じた対応を支援している。。電話24時間相談できる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携医療機関の医師に紹介状等の相談出来る。緊急時の連絡も可能。	○	病院関係者との関係作りを行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は、ホーム内研修を行い、方針を共有している。契約時に、重要事項において説明、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は、行っていない。	○	今後ホーム内研修などで、変化に備えての検討や準備をする。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		○	必要に応じて行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で配慮している。記録時入居者の前で記録しないこと、ホーム内研修にて、個人情報の重要性や取扱いを学び配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択種をいくつか、用意し選んで頂けるように、支援している。	○ 働きかけを意識し、チームで行い、広げていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の関わりの中で配慮しているが、入浴など、場合によっては、希望に添えない時もある。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	努力してはるが、不十分。	○ 身だしなみ等に心配りする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の相談、買い物、時意見を聞く事や、調理やかたづけを行う。	○ 一部の人に集中している為他にも広げていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の相談、買い物、時意見を聞く事を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツから布の下着へ移行。トイレでの排泄が可能になった方が増えている。	○	個々の様子を観察しながら、トイレ誘導のタイミングを計れるように支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を聞いているが、入浴を、促す場合もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リネン交換や布団干し等に配慮し、夜間は、1時間毎の見回りし、安心に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や、外出、調理等に力を活かした役割、日光浴や、散歩、夕涼み等気晴らしが行える支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部だが、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、散歩、外食、おやつを食べに行くなど支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や知人との外出支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		○	手紙に取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は早朝や夜間以外いつでも訪問出来、居室、リビングなどお好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。一部必要に応じて、ベット柵を使用されて居る。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。非常口や夜間など必要に応じ使用する場合もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居室確認や個々の関わりに配慮している。夜間は1時間ごとの見回りや、所在確認に配慮している。。	○	安全に配慮する事の大切さを、職員全員が認識し確実にやっていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、見えない場所や、届かないところに置く等危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内研修で学んでいるが、不十分。個々の状態やその日の様子を把握し事故防止に取り組んでいく。	○	危険予知や、リスク管理の必要性を理解、徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内研修を行い、マニュアルを作成している。	○	定期的な研修や、マニュアルの確認を行い、対応できるようにする。消防署の応急手当講習会参加も検討する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画は、作成している。避難訓練は、今後実施する。	○	4階建てのため、ホーム以外の方々に協力と理解を頂けるように努め、避難訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時特に注意を、払い説明している。ご家族にも、時間を作って頂き話す機会を持ち、電話等でも話す工夫をしている。	○	個々の様子の変化に配慮し、対応策を家族、職員共に認識し、リスクに対応する。
たい				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	。毎日のバイタル測定やケアノートにて行っている。朝、夕の申し送り等で情報を共有し、対応している。必要に応じて、医師との連携をする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めているが、副作用などの理解は不十分。個人ファイルにお薬表の保存、変更時ケアノートやケアシートにて、変化の対応に努めている。	○	薬についての、勉強会をし、理解を深める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	記録の確認、食事、水分量、運動など予防に努めている。必要に応じて、ドクターに相談している。	○	体調の変化に応じ、薬の調整、水分確認などを、徹底する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個々に対応している。訪問歯科により、口腔状態の把握に努め、必要に応じて相談できるよう、支援している。	○	口腔ケアの大切さを学び、健康に過ごして頂くために、徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	、食事、水分量、を記録に残し、個々の状態把握に努めている。好きなものを食べられるよう工夫し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員個々に学んでいるが、ホームないでは取り決めはない。	○	感染症のマニュアル作成、情報を共有し、対応する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、その日に使用する食材を購入、調理器具や食器は、消毒、食器乾燥機使用で、安全に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関も個々に過ごせるように、椅子や、ソファを置いている。お天気の日には、椅子を外に出し、日光浴や、夕涼みをする。花壇を作り楽しめるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に、絵や季節を感じられる品を飾っている。個々にの居室は、プライバシーに配慮し、窓の開放や、写真など飾っている。。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファーや椅子を置いている。時には気のあった入居者同士お茶を飲んだり、職員も一緒に過ごすこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	契約時家族にご理解頂き、馴染みのある品をお持ちい ただいている。本人の写真など飾り、安心できる様配 慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	居室を訪問時確認、窓を開けて換気やエアコンの温 度調整もこまめに調整し、状況に応じて、配慮してい る。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	階段、トイレに手すりがある。今後は、状況に応じて対 応していく。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室に名前をつけたり、目印になる品を付けるなど工 夫している。	○	職員が分かる力の把握を共有し、関わりの中で広げ ていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関前に花壇があり、花を植え、水やりや、草をぬいた り、日光浴のときに、楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりとの、かかわりを大切にし、入居者、職員共に楽しく過ごせるようにしている。入居者を中心に家族と職員共に協力し、大きな家族になれるようなホームを目指している。人材確保やサービスの向上にも、力をいれている。